

2010年3月期 第3四半期決算 電話説明会 説明概要

「2010年3月期 第3四半期決算 補足資料」をもとに説明致しましたので併せてご覧ください。
お手元がない場合は、お手数ですが当社 IR サイトよりダウンロードをお願いいたします。
<http://www.olc.co.jp/ir>

- ・実施日 2010年2月4日（木）
- ・説明者 取締役執行役員 横田 明宜

【連結業績】

2010年3月期 第3四半期決算の連結損益計算書を簡単に確認させていただきます。お手元の補足資料の左ページをご覧ください。

当四半期は、前年同期と比較して、

- ・売上高は、143億円減の2,860億円、
- ・営業利益は、25億円減の397億円、
- ・経常利益は、27億円減の390億円、
- ・四半期純利益は、13億円増の252億円

となり、減収ではあるものの、四半期純利益は増益となりました。

【セグメント別売上高】

セグメント別の売上高とその増減要因について説明いたします。

①テーマパーク事業

売上高は、前年同期比144億円減の2,215億円となりました。

入園者数及びゲスト1人当たり売上高の前年同期差異については、補足資料右ページの表「(2)テーマパーク関連情報」をご覧ください。

入園者数は、東京ディズニーリゾート25周年の翌年であることなどから、前年同期を下回りましたが、ほぼ予想通りとなりました。

一方、ゲスト1人当たり売上高は、前年同期とほぼ同様となり、好調に推移いたしました。その内訳を説明いたしますと、チケット収入は、前年同期とほぼ同様となりました。商品販売収入は、東京ディズニーシー限定の「ダッフィー」商品の販売が引き続き好調であったものの、25周年の翌年であることなどから、前年同期を若干下回りました。飲食販売収入は、ワゴン販売が好調であったことなどから、前年同期を若干上回りました。

また、資料には記載してございませんが、参考までにゲスト1人当たり売上高の11月予想との比較について申し上げますと、予想を上回りました。主な要因は、「ダッフィー」商品やハロウィン商品が好調であった商品販売収入が、上回ったことによります。

②ホテル事業

東京ディズニーランドホテルが通年稼働したものの、各ホテルの客室稼働率が減少したことなどから、売上高は前年同期比 1 億円減の 348 億円となりました。

各ホテルの客室稼働率の前年同期差異については、補足資料右ページの表「(3) ホテル客室稼働率」をご覧ください。各ホテルの客室稼働率は、25 周年の翌年であることに加え、新型インフルエンザの影響などの外部要因の影響により、それぞれ前年同期を下回りました。

また、資料には記載してございませんが、参考までに各ホテルの客室稼働率の 11 月予想との比較について申し上げますと、東京ディズニーランドホテルとパーム&ファウンテンテラスホテルは、予想を若干上回り、東京ディズニーシー・ホテルミラコスタとディズニーアンバサダーホテルは、ほぼ予想通りとなりました。

③リテイル事業

売上高は、前年同期比 7 億円減の 112 億円となりました。

主な指標については、補足資料右ページの表「(4) ディズニーストア関連情報」をご覧ください。

ディズニーストアの既存店売上高は、景気悪化という環境の中、前年同期を下回りました。出退店状況ですが、御殿場プレミアムアウトレット店ならびに土浦イオン店を出店した一方、4 店舗を退店した結果、当四半期末の店舗数は 55 店舗となりました。

④その他の事業

2008 年 10 月 1 日にグランドオープンしたシルク・ドゥ・ソレイユ シアター東京の通年稼働などにより、売上高は前年同期比 10 億円増の 184 億円となりました。

【セグメント別営業利益】

セグメント別の営業利益とその増減要因について説明いたします。補足資料の右ページ中段をご覧ください。

⑤テーマパーク事業

商品原価率や固定経費・諸経費、減価償却費が低減できたものの、売上高が減少したことなどから、営業利益は前年同期比 48 億円減の 320 億円となりました。

⑥ホテル事業

各ホテルの客室稼働率は減少したものの、東京ディズニーランドホテルの通年稼働により売上高が増加したことに加え、同ホテルの開業前準備費用が 26 億円減少したことなどから、営業利益は前年同期比 13 億円増の 68 億円となりました。

⑦リテイル事業

売上高は減少したものの、前期に引き続き店舗人件費などの固定費の低減に努めたことなどにより、営業利益は前年同期比 1 億円増の 1 億円となりました。

⑧その他の事業

シルク・ドゥ・ソレイユ シアター東京の開業前準備費用が6億円減少したことなどから、営業利益は前年同期より7億円改善し、4億円となりました。

セグメント別営業利益の説明は、以上となります。

【四半期純利益】

四半期純利益の増減要因について説明いたします。

特別損失は、リテイル事業を譲渡することに伴い特別損失を計上したことにより、前年同期に発生した特別損失を5億円上回りました。

法人税等は、リテイル事業を譲渡することに伴い課税所得の減少が見込まれることなどから、前年同期比47億円減となりました。

この結果、四半期純利益は、前年同期比13億円増の252億円と過去最高となりました。

【総括】

総括をさせていただきます。補足資料右下の「総括」をご覧ください。

当四半期実績を前年同期と比較いたしますと、営業利益・経常利益は減益となりましたが、四半期純利益は過去最高となりました。

- ・ 東京ディズニーリゾート25周年の翌年であることなどから、テーマパーク入園者数が減少し、テーマパーク事業は減収減益となりました。ただし、ゲスト1人当たり売上高は前年同期とほぼ同様となり、高水準を維持いたしました。
- ・ リテイル事業を譲渡することに伴い、特別損失を計上した一方課税所得の減少が見込まれることにより法人税等が減少したことなどから、四半期純利益は過去最高となりました。

続いて、数値は開示していませんが、11月発表業績予想と比較いたしますと、テーマパーク事業を中心に業績予想を上回りました。

- ・ テーマパーク事業は、ゲスト1人当たり売上高が予想を上回ったことに加え、商品原価率や固定経費及び諸経費が減少したことなどにより、増収増益となりました。なお、入園者数についても、ほぼ予想通りとなり、好調に推移いたしました。
- ・ ホテル事業は、客室稼働率が予想を上回ったことなどにより増収増益。リテイル事業及びその他の事業の営業利益は、ほぼ予想通りとなりました。

最後に、当四半期決算を踏まえた通期の業績予想についてですが、ご説明しました通り、当四半期は業績予想を上回って推移したものの、第4四半期におけるテーマパーク入園者数に対する天候リスクなどを踏まえ、現時点では通期の業績予想を変更いたしません。

以上